

# 編修趣意書

(教育基本法との対照表)

受理番号	学校	教科	種目	学年
31-116	中学校	技術・家庭	技術・家庭 (技術分野)	第一学年から第三学年
発行者の番号・略称	教科書の記号・番号	教科書名		
6・教図	技術・702 技術・703	NEW 技術・家庭 NEW 技術・家庭	技術分野 技術分野	明日を創造する 明日を創造する 技術ハンドブック

## 1. 編修の基本方針

生産年齢人口の減少、グローバル化の進展、技術革新などによって、生活や社会の環境は大きく変わってきています。そのような状況の中で、未来の大人には、自らの手で課題を解決できる力が求められています。本書は、以下のように、技術に興味・関心を持ち、時代の変化に柔軟に対応できる力を育成することを目標に編集しました。

### 1 幅広い知識と教養を身につけ、 創造性を培うことができる教科書

- ① すべての内容項目を、1・2・3 (4) 章という共通の構成にしました。
- ② 実習では、技術の基礎・基本がしっかりと学べるようにしました。
- ③ 実習の基礎技能を、別冊の「技術ハンドブック」にまとめました。

### 2 職業観、勤労観を重んじて、主体的に 社会の形成に参画できる力を育てる教科書

- ① 巻頭、巻末の見開きでは、社会で活躍する技術を見つけられるようにしました。
- ② 進路の選択を考えられるように、「先輩からのメッセージ」のコーナーを設けました。
- ③ 各学校によって異なる、幅広い教室環境に対応できるように配慮しました。

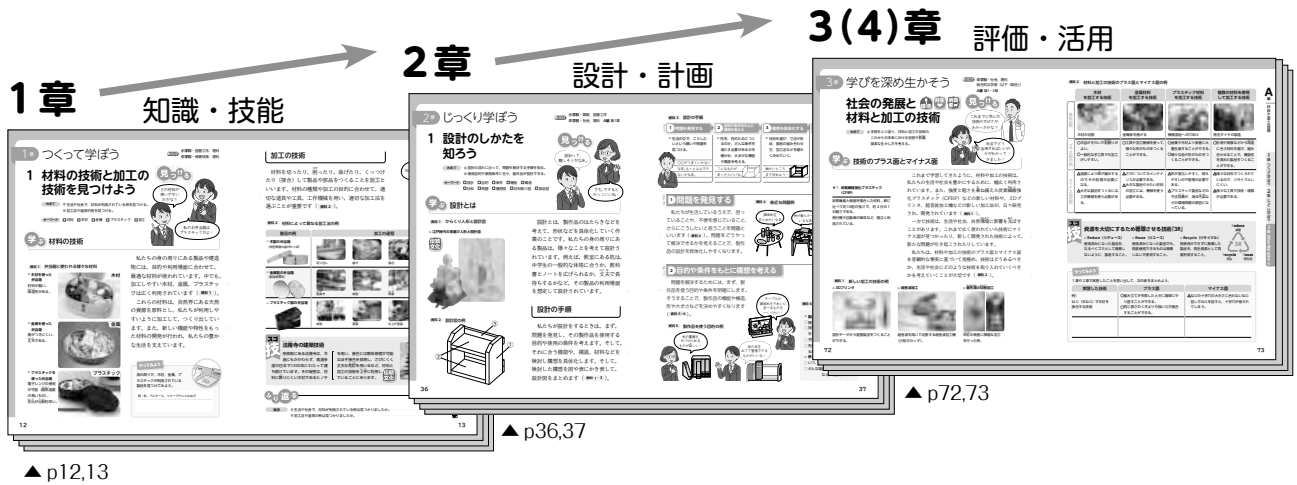
### 3 伝統と文化を尊重し、国際社会でも 通じる力を身につけられる教科書

- ① 伝統技術や日本の文化について考えられるコラムを多数設けました。
- ② 未来の社会像「Society5.0」の特集ページを設けました。
- ③ 社会の発展と技術について、自ら考察できるようにしました。

# 1

## 幅広い知識と教養を身につけ、 創造性を培うことができる教科書

①すべての内容項目を、1・2・3章という共通の構成にしました。

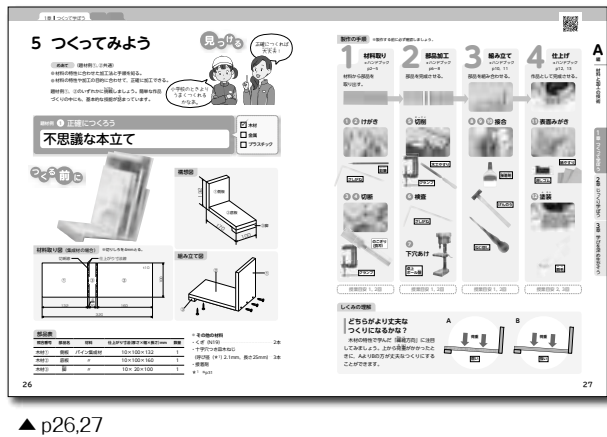


1章「知識・技能」：生活や社会の身近な技術を学びます。また簡単な題材の製作によって**基本的な技能**を学びます。

2章「設計・計画」：設計・計画の手順を学び、自ら技術による**問題の解決**に取り組めるようにしました。

3章「評価・活用」：**技術のプラスとマイナス**を理解して、社会の発展と自然の環境を守るための重要性を学びます。

②実習では、**技術の基礎・基本**がしっかりと学べるようにしました。



### 本の構成

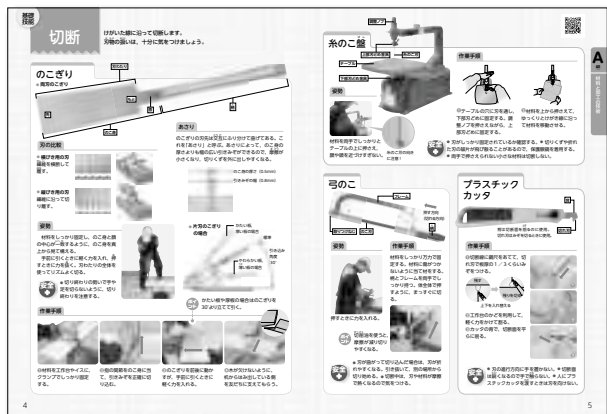
1章でかんたんな見本題材を製作して基礎知識、技能を習得します。2章では、それを活かして設計・計画をします。

また、複合的な題材を扱う編として、E編を設けております。

### 読みやすさ

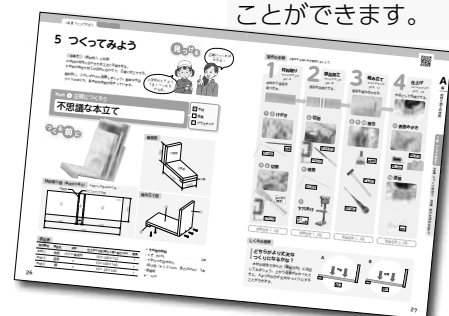
一つひとつの題材の工程を丁寧に解説しているため、生徒が理解しながら実習できる構成になっています。

③実習の基礎技能を、別冊の「**技術ハンドブック**」にまとめました。



◀技術ハンドブック  
p4,5

手軽に持ち運べる別冊で、実習をしながら各種技能や、工具の**安全な操作法**などを確認することができます。



# 2

## 職業観，勤労観を重んじて，主体的に 社会の形成に参画できる力を育てる教科書

①巻頭，巻末の見開きでは，  
社会で活躍する技術を見つけられるようにしました。



▲口絵1, 2 (最初の見開き)



▲口絵5, 6 (最後の見開き)

はじめの見開きでは，小学校までの学習をふり振り返りながら，生活の中の身近な技術を探せる仕組みになっています。そして，3年間の学習を終えた後には，これまでの学習をふり振り返り未来に視線を向けます。

②進路の選択を考えられるように，  
「先輩からのメッセージ」のコーナーを設けました。



▲p284,285

中学校の技術の授業を経験した後に，専門的な勉強ができる高等学校に進学した先輩のインタビューを掲載しました。

### 水産

神奈川県立  
海洋科学高等学校

**Q この学校を選んだ理由は？**

- 子どものころから海に興味があり，中学生になって，海洋環境を学びたいと思いました。
- 将来は海洋科学関係の大学へ進学を目指しているため，この高校を選びました。

**Q 卒業後の進路は？**

- 海洋生物の研究職や海洋研究開発機構(ジャムステック)などに興味があります。
- イルカのトレーナーの仕事に就きたいと思っています。

**中学生の皆さんへ**

- 実習が多く，経験から知識が学べ，それを生かせる学校ですので楽しいですよ。
- この学校では，多くのことを自分で経験できるので，納得できる学習ができています。

③各学校によって異なる，効果的な教室環境・学校環境づくりを提示しました。

**悩み 1** 工具を使うのが  
苦手だな!

愛知県立一宮東特別支援学校

多様な生徒の実態に対応できるよう，教室環境を整える必要があります。どんな教室の環境でも授業ができるように配慮しました。

▶ p8,9

**悩み 2** 車いすでも  
作業したいな!

花壇の高さを上げたり，足が入るスペースを確保したりする工夫をしてみよう。

**悩み 3** 作業の順番が  
分からなくなりそうだな!

きちんと片づけられるかな？

工具の位置をわかりやすいように決めておくと，必要な用具をすくに探せるし，片づけも速く正確にできるよ。

# 3

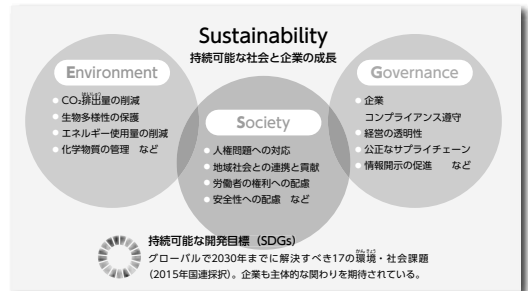
## 伝統と文化を尊重し、国際社会でも通じる力を身につけられる教科書

### ①未来の社会像「Society5.0」や、SDGsについて取り上げています。



現在の情報社会 (Society4.0) の次に来るであろう社会「Society5.0」について、教科書で学習した技術が、この先どのように社会で生かされるかを考えさせます。

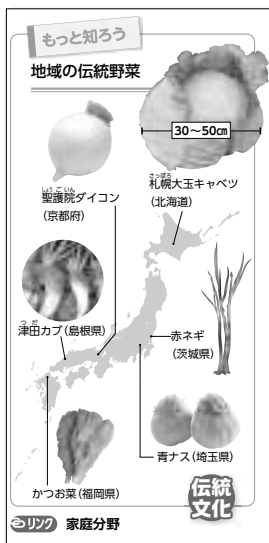
p120,121▶



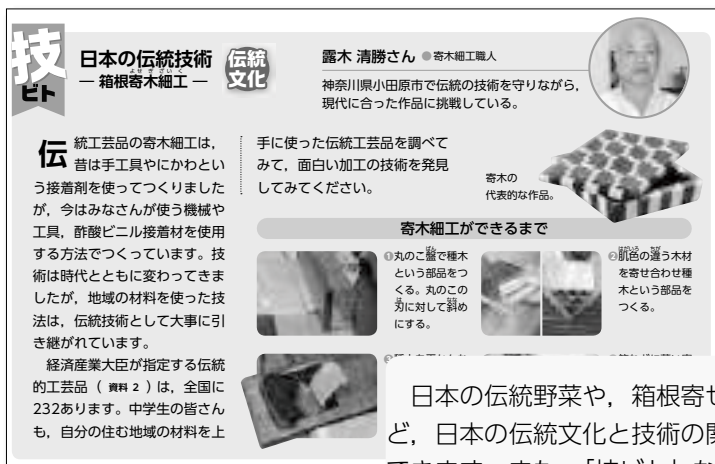
▲p182

持続可能な社会を目指すために、SDGsについても取り上げています。

### ②伝統技術や日本の文化について考えられるコラムを多数設けました。



◀p91



◀p35

日本の伝統野菜や、箱根寄木細工の職人など、日本の伝統文化と技術の関係を学ぶことができます。また、「技ビト」などのコラムでも、伝統について扱っています。

### ③社会の発展と技術について、自ら考察できるようにしました。

資料4 生物育成の技術のプラス面とマイナス面の例

	ビニルハウスで栽培する技術	生物の育成を機械化する技術	水産生物を養殖する技術	情報の技術を活用する技術
技術の発展				
メリット	<ul style="list-style-type: none"> <li>温度管理、水分管理、土壌管理や肥料管理がしやすい、均一で高品質の作物を栽培できる。</li> <li>気候に左右されず安定した生産ができる。</li> <li>害虫の侵入を防ぎ、薬品の使用を少なくできる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生産管理と衛生管理がしやすいので、均一で高品質の生物を育成することができる。</li> <li>作業が能率的にできるため、耕作面積を大きくしたり、飼育頭数を増やしたりできる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>育てる環境を安定化することで、水産生物の生産性や品質が向上する。</li> <li>稚魚を育てる環境の調節をすることで、生産期間の短期化や出荷時期の調整などが可能になる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>作物の特性をより生かした育成管理が取り組みやすくなる。</li> <li>労力を減らしながら、生産性を高められる。</li> <li>農業に魅力が生まれ、新たな農業の担い手を増やすことが期待できる。</li> </ul>
デメリット	<ul style="list-style-type: none"> <li>施設を設置する費用や燃料代がかかり、作物の価格が高くなる。</li> <li>同じハウス内で作物を続けて栽培すると、連作障害になりやすい。</li> <li>台風や突風、大雪のような気象によって、倒壊する可能性がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>はじめに機械や設備などに多くの費用が必要で、経済的な負担が大きいが、機械化で大量の生物を育成する場合、ウイルスなどによる被害が大きくなる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>施設の設定や設備を維持管理するコストがかかる。</li> <li>餌の過剰な投与により水質汚濁になる可能性がある。</li> <li>制限された親から生まれる子はなりとなり、特性が偏る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ドローンなどの情報機器の導入と維持管理のコストがかかる。</li> <li>情報セキュリティがしっかりしていないと、生産情報が盗まれやすい。</li> </ul>

#### やってみよう

1章や2章で学習したことを思い出して、次の表をまとめよう。

実習した技術	プラス面	マイナス面
例) 養液栽培の技術	<ul style="list-style-type: none"> <li>土を使わずに、容器と培養液だけで栽培できる。</li> <li>狭いスペースで栽培できる。室内でも栽培しやすい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>培養液は薬品なので、処理に注意が必要である。</li> <li>葉菜類は栽培できるが、根菜類はまだ栽培できない。</li> </ul>

▲p115

各内容項目の章末では、技術のプラス面・マイナス面を考察します。

## 2. 対照表

図書の構成・内容	該当箇所	特に意を用いた点や特色	
共通 設計・計画	p36,92,156,220,246	個人の価値を尊重して、創造性を培い、自主及び自律の精神を養うために、すべての内容項目で設計・計画の流れを示しました。(第2号)	
	「技ビト」 「スゴ技」	職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養うために、箱根細工の職人や、筋電義手の開発など、さまざまな分野で活躍する方からのメッセージを掲載しました。(第2号)	
	「リンク」 マーク	幅広い知識と教養を身につけ、真理を求める態度を養うために、他教科や小学校など、ほかの学習との関連を示す「リンク」マークを掲載しました。(第1号)	
ガイダンス	p6,7	個人の価値を尊重して、創造性を培い、自主及び自立の精神を養うために、問題解決的な技術を掲載しました。(第2号)	
	p8,9	男女の平等、自他の敬愛と協力を重んずる態度を養うために、共同して作業しやすい環境づくりを掲載しました。(第3号)	
A編 材料と加工の技術	p12	幅広い知識と教養を身につけ、自主及び自律の精神を養うために、生徒の身近にあるであろう弁当箱を掲載しました。(第1号、第2号)	
	1章 2章 3章	p38,39,61,67,68,69	個人の価値を尊重して、創造性を培い、自主及び自立の精神を養うために、課題解決学習に適した実習題材を掲載し、製作品の例示を多く載せ、工夫・創造する力を育てることを目指しました(第3号)。
		p36-43	個人の価値を尊重して、創造性を培い、自主及び自立の精神を養うために、問題解決の手順を丁寧に示すことで、問題解決的な能力を育むことを目指しました(第2号)。
B編 生物育成の技術		p84,85	職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養うために、農場や林業の施設の見学について学習できることを目指しました(第2号)。
	1章 2章 3章	p91	幅広い知識と教養を身につけ、真理を求める態度を養うために、日本の各地域の特産となっている伝統野菜を紹介しました(第1号)。
		p113	個人の価値を尊重して、創造性を培い、自主及び自立の精神を養うために、作物の品種改良の技術を紹介し、技術の知的財産の保護について学習できることを目指しました(第2号)。
特集 Society5.0		p120,121	環境の保全や、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うために、「Society5.0」を紹介しました。(第5号)
C編 エネルギー変換の技術		p142,143	幅広い知識と教養を身につけ、真理を求める態度を養うために、エスカレータの技術の工夫について考え、技術の力によって問題を解決できることの大切さを示しました(第1号)。
	1章 2章 3章	p144,145	個人の価値を尊重して、創造性を培い、自主及び自立の精神を養うために、自転車や蛍光灯、電池などの身近な製品の保守・点検の技術を取り上げ、技術を適切に評価し活用する能力の育成を目指しました(第3号)。
		p152,153	幅広い知識と教養を身につけ、真理を求める態度を養うために、様々な発電技術の特徴を示すことで、社会的・環境的・経済的な視点で技術を評価し、活用する能力を育成することを目指しました(第1号、第3号)。
D編 情報の技術	1章 2章 3章 4章	p198-201	個人の価値を尊重して、創造性を培い、自主及び自立の精神を養うために、スマートフォンやタブレットなど、生徒の身近な製品を取り上げ、情報モラルや情報セキュリティを示しました(第2号)。
		p202,203	個人の価値を尊重して、創造性を培い、自主及び自立の精神を養うために、ネット依存に関する依存度のチェック表を載せ、生徒が安全に情報機器を利用できるように配慮しました(第1号、第3号)。
		p208-213	幅広い知識と教養を身につけ、自主及び自律の精神を養うために、プログラミングに関する特集ページを設け、その必要性を示しました(第1号、第2号)。
E編 夢をかなえる技術		p272-283	個人の価値を尊重して、創造性を培い、自主及び自立の精神を養うために、これまでの学習の総括として、領域を横断した製作品に挑戦して、工夫・創造することの大切さを示しました(第2号)。
ファイナル		□絵 4	伝統と文化を尊重し、我が国と郷土を愛する態度を養うために、「博物館に行ってみよう!」で、見学レポートに取り組みせ、生活の中から技術を発見できるように意識しました(第2号、第3号、第4号)。
		□絵 5,6	環境の保全や、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うために、未来の社会をイメージを示して、これからの未来を創造する生徒たちに改めて技術と社会の関わりを想像させることを意識しました(第4号、第5号)。
技術ハンドブック		別冊全体	幅広い知識と教養を身につけ、真理を求める態度を養うために、基礎技能を参照できるように、本紙よりもさらに詳しい手順や安全について示し、自ら状況を解決できる能力を育めるように意識しました(第1号)。

# 編修趣意書

(学習指導要領との対照表)

受理番号	学校	教科	種目	学年
31-116	中学校	技術・家庭	技術・家庭 (技術分野)	第一学年から第三学年
発行者の番号・略称	教科書の記号・番号	教科書名		
6・教図	技術・702 技術・703	NEW 技術・家庭 NEW 技術・家庭	技術分野 明日を創造する 技術分野 明日を創造する	技術ハンドブック

## 1. 編修上特に意を用いた点や特色

### その1. 授業が展開しやすい教科書

#### ① 学力の三つの柱との対応した章立て

教科書内の、A,B,C,D 編と1, 2, 3章の構成が、「学力の三つの柱」と対応しています。

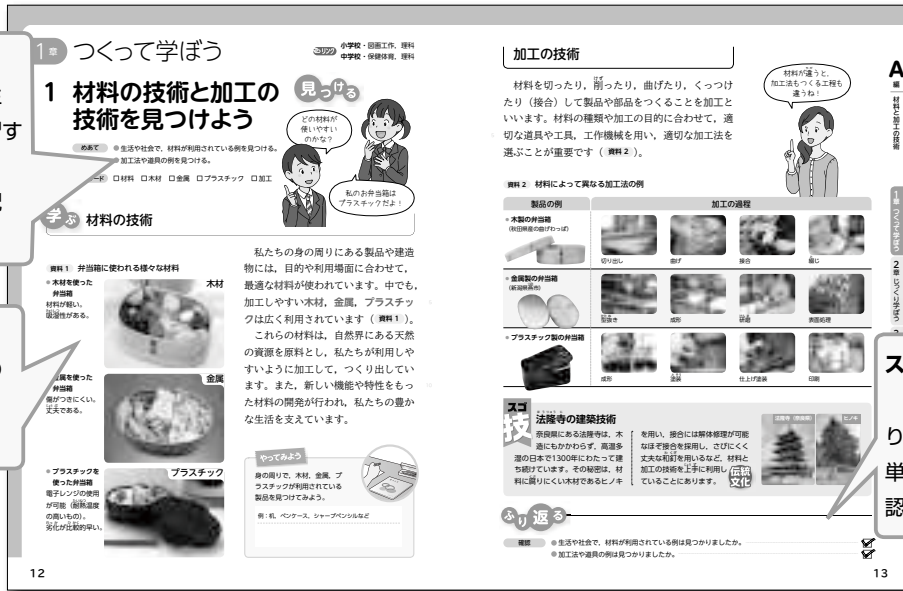


#### ② 授業の流れが見える紙面

「見つける」→「学ぶ」→「ふり返る」という学習の流れを「3ステップ」で明確にすることで、生徒が本文を読み進めやすく、**技術の見方・考え方を養う**ことができるようになりました。

**ステップ1. 見つける**  
生徒同士や、生徒と先生の対話で、その単元を学習する上で生徒が興味・関心をいだくであろう内容を配しました。

**ステップ2. 学ぶ**  
本文は単元の学習内容の要点をまとめて読みやすくしました。



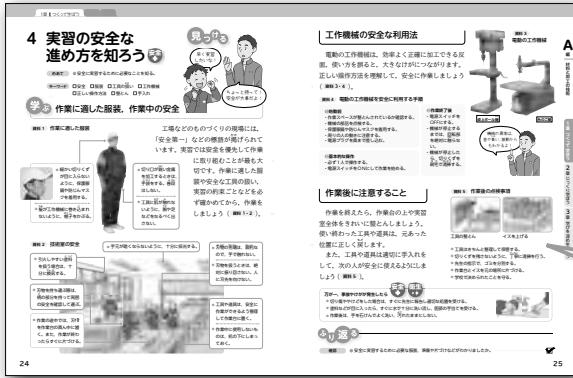
**ステップ3. ふり返る**  
「めあて」に対応したふり返りを設定することで、単元の習得度合を自ら確認できるようにしました。

#### ③ 読みやすい工夫

- 見やすさ・情報量、机のサイズを考慮した判型（縦長）にしました。(264・203mm)
- 重要語句：学習内容の重要語句の視認性を上げるために、青太文字にしました。
- 文字サイズ：音読がしやすいように、大きくしました。(従来より20%アップ)
- 資料マーク：本文を補足する資料が一目で把握できるように、黄色のマークにして目立つようにしました。
- 本文を、なるべく3文で構成し読みやすく、理解しやすいようにしました。

# その2. 題材を実践して 問題解決の力がつく教科書

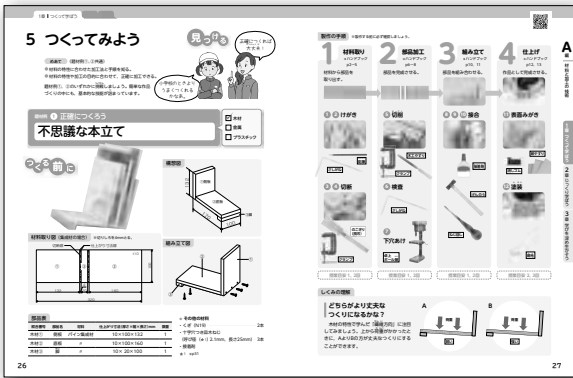
## 1章 実習前に安全を学ぶ



実習に入る前に、安全で楽しく実習を行うための決まりごとを示しました。各編すべてで取り上げています。

A, B, C, D編いずれでも、  
実習題材に入る前に、  
その学習に応じた、安全  
学習を行います！

## 1章 題材をつくりながら基礎を学ぶ



## 別冊「技術ハンドブック」

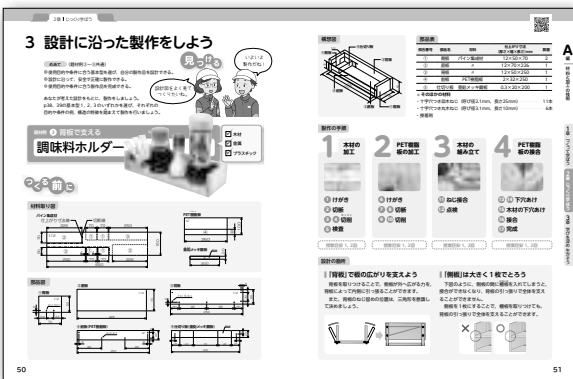
実習のエッセンスが  
詰まっています！



教科書を見て実習題材を完成できるように、作業手順を一つひとつ丁寧に示しました。作業を行いながら学習したい基礎技能内容を示しました。

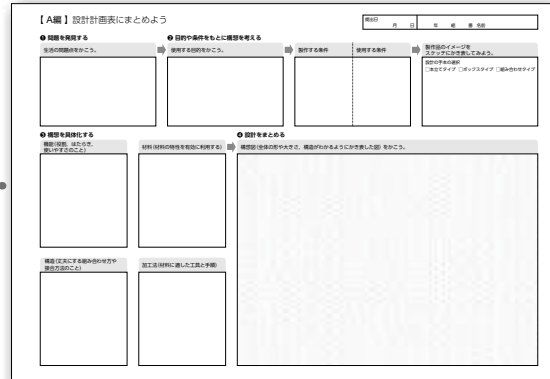
本書での実習を進める上で、安全で正確な技能を習得したいとき参考にできます。

## 2章 課題を見つけて設計製作する



自分の設計を実現  
できます！

## 切り取り式ワークシート「設計計画表」



2章では、設計・計画の流れについて学習します。1章での実習体験を活かしながら、生徒自ら課題を見つけて、設計・計画をして題材をつくります。

本書で学習した、設計・計画の流れを基に、自分で構想を立てて実現するために、各編のワークシートを切り取り式で巻末に設けました。

# その3. 新しい時代に対応する教科書

## ①問題解決的な学習のために

下の手順を基本にして、各編での特色を加えた設計・計画がたてられる構成になっています。

### 技術分野の学習過程

#### 既存の技術の理解

・技術に関する原理や法則、基礎的な技術の仕組みを理解するとともに、技術の見方・考え方に気付く。

#### 課題の設定

・生活や社会の中から技術に関わる問題を見だし、それに関する調査等に基づき、現状をさらに良くしたり、新しいものを生み出したりするために解決すべき課題を設定する。

#### 技術に関する科学的な理解に基づいた設計・計画

・課題の解決策を条件を踏まえて構想（設計・計画）し、試行・試作等を通じて解決策を具体化する。

#### 課題解決に向けた製作・制作・育成

・解決活動（製作・制作・育成）を行う。

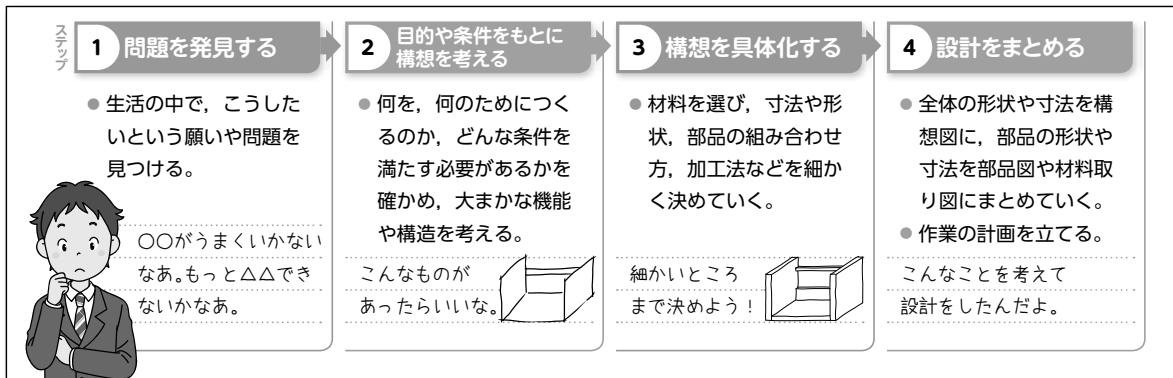
#### 成果の評価

・解決結果及び解決過程を評価し、改善・修正する。

#### 次の問題の解決の視点

・技術についての概念の理解を深め、よりよい生活や持続可能な社会の構築に向けて、技術を評価し、選択、管理・運用、改良、応用について考える。

### この教科書の設計・計画（4ステップ）の進め方



## ②小中高の連携（プログラミング言語）

### ●スクラッチ（ビジュアル型）●



小学校や自宅での体験を活かせるように、ビジュアル型のプログラミング言語を掲載しています。また、高等学校や将来に生かせるように、日本語入力型のプログラム言語も掲載しています。

### ●ドリトル（日本語入力型）●



### ●なでしこ（日本語入力型）●



## 教科書の特徴

基本事項	教育基本法の遵守	教育基本法第2条の目標を達成するために、対照表のとおり第1号から第5号の目標を念頭に置いて編修しました。
	学習指導要領の遵守	①学習指導要領に示された内容項目については、対照表のとおりすべて扱っています。 ②生徒がよりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し創造する資質・能力を身につけられるように、基礎的・基本的な知識を精選し、身につけた知識や技能を使った実践的・体験的な課題解決学習を重視して編修しました。
内容・系統性	配列・分量・他	①3年間の学習87.5時間を見とおした編集内容にしました。 ②1章は社会を支える技術, 2章は技術による問題の解決(【D編 情報の技術】は2章3章), 3章は社会の発展と技術(【D編 情報の技術】は4章)の技術の3要素を学習し易いように段階的な配列としました。
	教科等の関連	小学校と中学校の他教科とのリンクマークを設けました。
	資質能力の育成	①「見つける・学ぶ・振り返る」を基本配列としました。「見つける」で学習意欲を喚起, 「学ぶ」で自主的に学習, 「振り返る」で学習理解の確認ができます。 ②1章の製作題材は基礎技能が学べる優しい題材とし, 2章(【D編 情報の技術】は2章3章)では問題発見ができる製作題材としました。
	多様な学習の実現(アクティブラーニングの実現)	各編に「やってみよう」として, 自ら学ぶグループで学ぶ/問いかけを多数設けました。
	現代的・社会的・課題への対応(いじめ・情報モラルほか)	【D編 情報の技術】では, 「情報モラル」を取り上げ, 資料・図説の解説だけでなく, 「やってみよう」で実際の事例やネット依存度のチェックができるようにしました。
	伝統文化の尊重	【A編 材料と加工の技術】には, 日本の伝統的な加工法を掲載しました。
	社会の持続可能な発展	①各編の3章(【D編 情報の技術】は4章)に社会の発展と技術におけるプラスとマイナスの資料を掲載して, 自ら考え判断できる内容にしました。 ②【C編 エネルギー変換の技術】の3章には社会と関連させたサステナビリティの資料を掲載しました。
その他	地域教材の活用・開発	各編に各地域の伝統文化や産業を掲載しました。
	資料活用・情報活用・ICT活用	QRマークからより深める内容と動きの確認ができるデジタル資料を掲載します。
	特別支援教育の観点からの配慮	ガイダンスに特別支援学校での実習の事例を掲載しました。
	文字	生徒が読みやすいように, 本文の文字の大きさを大幅にアップしました(18Q)。「資料」は一目で判別できるように黄色で示しています。
	判型・印刷・製本	見やすく理解しやすい紙面を実現と, 机上のスペースの確保のためにAB判縦長変形としました。
	安全への配慮	安全のマークだけではなく, ガイダンス並びに各編の実習前に必ず注意してほしい内容を図説で解説しております。
	今日的な教育課題への配慮	環境・衛生・伝統文化・知的財産・安全・情報モラル・共生・消費者・防災のマークを設定して, 生徒に一目で分かるようにしました。
	興味・関心を高める工夫	①各編の2章(【D編 情報の技術】は2章3章)で設計・計画を丁寧に掲載し, 生徒自ら問題解決がしやすいように巻末に切り取りワークシートを付けました。 ②今までの技能資料を別冊ハンドブックにし, 本紙の製作題材の確認や実習中の確認できるようにしました。
	人権上の配慮	写真やイラストに登場する男女の比率, 役割などに偏りがないように配慮しました。
	地域性の配慮	各地域の職業人にインタビューをしたり, 全国の博物館の情報を掲載しております。
	知的財産	技術立国である日本にとって重要な特許や意匠など, 知的財産に関する資料を各編で取り上げています。

## 2. 対照表

内容	章	ページ	番号	タイトル・題材名	要素・項目	観点	キーワード	配当 時数	合計		
ガイダンス		①-9		技術を見つけよう、目次、使い方、安全、わたしたちの生活を支える技術、より作業しやすい環境づくり	ABCD	知識・技能、態度	安全・衛生・環境・共生・防災	2	2		
材料と加工の技術 A編	1章	12-13	1	材料の技術と加工の技術を見つけよう	A(1)ア	知識・技能、態度	環境	1	19		
		14-21	2	材料の特性を調べよう	A(1)ア	知識・技能	防災				
		22-23	3	問題を解決する工夫を考えよう	A(1)イ	思考・判断・表現	環境				
		24-25	4	実習の安全な進め方を知ろう	A(2)ア	知識・技能、安全	安全・衛生	1			
		26-33	5	つくってみよう	A(1)ア(2)イ	知識・技能	安全	2			
		34-35	6	1章で学んだことをまとめよう	A(1)アイ	知識・技能、態度	伝統	1			
	2章	36-43	1	設計のしかたを知ろう	A(2)イ	思考・判断・表現	知財	3			
		44-49	2	図や表を読み取ろう	A(2)ア	思考・判断・表現	知財	2			
		50-69	3	設計に沿った製作をしよう	A(2)アイ	思考・判断・表現	知財	6			
		70-71	4	2章で学んだことをまとめよう	A(2)アイ	思考・判断・表現、態度	伝統	1			
	3章	72-75	5	社会の発展と材料と加工の技術	A(3)アイ	知識・技能、思考・判断・表現、態度	環境・共生	2			
		76-77	6	A編のまとめ	A(1)(2)(3)	知識・技能、思考・判断・表現、態度	共生				
生物育成の技術 B編	1章	80-81	1	生物を育てる技術を見つけよう	B(1)ア	知識・技能、態度	環境	1	14		
		82-83	2	生物を育てる技術を知ろう	B(1)ア	知識・技能	環境				
		84-85	3	実習や見学の安全な進め方を知ろう	B(2)ア	知識・技能	安全・衛生	1			
		86-87	4	育ててみよう	B(1)ア(2)イ	知識・技能	衛生	1			
		88-89	5	生物を育てる技術の工夫を調べよう	B(1)イ	思考・判断・表現	環境・衛生	0.5			
		90-91	6	1章で学んだことをまとめよう	B(1)アイ	知識・技能、態度	伝統	0.5			
	2章	92-95	1	生物育成の計画を立てよう	B(2)イ	思考・判断・表現	知財	2			
		96-105	2	計画に沿って作物を栽培しよう	B(2)アイ	思考・判断・表現	安全・衛生	4			
		106-111	3	家畜や水産生物を育てる技術を体験しよう	B(2)アイ	思考・判断・表現	安全・衛生	1			
		112-113	4	2章で学んだことをまとめよう	B(2)アイ	思考・判断・表現、態度	知財	1			
	3章	114-117		社会の発展と生物育成の技術	B(3)アイ	知識・技能、思考・判断・表現、態度	環境・知財・共生	2			
		118-119		B編のまとめ	B(1)(2)(3)	知識・技能、思考・判断・表現、態度	環境				
	特集		120-121		技術で創造する社会 Society5.0	C(3) D(4)	知識・技能	発展			
	エネルギー変換の技術 C編	1章	124-125	1	エネルギー変換の技術を見つけよう	C(1)ア	知識・技能、態度	環境		1	17
126-129			2	電気に関する技術を知ろう	C(1)ア	知識・技能	環境	1			
130-131			3	機械に関する技術を知ろう	C(1)ア	知識・技能	安全	0.5			
132-133			4	実習の安全な進め方を知ろう	C(2)ア	知識・技能	安全・衛生	0.5			
134-137			5	つくってみよう (電気)	C(1)ア(2)ア	知識・技能	安全	2			
138-141			6	つくってみよう (機械)	C(1)ア(2)ア	知識・技能	安全				
142-143			7	問題解決の工夫	C(1)イ	思考・判断・表現	防災	1			
144-147			8	保守・点検のしかたを知ろう	C(1)ア(2)ア	知識・技能	安全				
148-149			9	電気の安全な使い方を知ろう	C(1)ア(2)ア	知識・技能	安全・衛生	1			
150-153			10	発電について知ろう	C(1)ア	知識・技能	環境	0.5			
2章		154-155	11	1章で学んだことをまとめよう	C(1)アイ	知識・技能、態度	安全	0.5			
		156-161	1	設計のしかたを知ろう	C(2)アイ	思考・判断・表現	知財	3			
		162-177	2	設計に沿った製作を知ろう	C(2)アイ	思考・判断・表現	安全	3.5			
		178-179	3	2章で学んだことをまとめよう	C(2)アイ	思考・判断・表現、態度	共生	0.5			
3章		180-181		社会の発展とエネルギー変換の技術	C(3)アイ	知識・技能、思考・判断・表現、態度	環境・消費者	2			
		182-183		C編のまとめ	C(1)(2)(3)	知識・技能、思考・判断・表現、態度	環境・共生				
情報の技術 D編		1章	188-189	1	情報を処理する技術を見つけよう	D(1)ア	知識・技能、態度	安全・防災	1	18	
			190-195	2	コンピュータが情報を処理するしくみを知ろう	D(1)ア	知識・技能	共生	1		
	196-197		3	情報通信ネットワークのしくみを知ろう	D(1)ア	知識・技能	共生	1			
	198-203		4	情報セキュリティと情報モラルを知ろう	D(1)ア	知識・技能	モラル・知財・衛生	1			
	204-205		5	情報の技術の工夫と利用を考えよう	D(1)イ	知識・技能	安全・共生	0.5			
	206-207		6	実習の安全な進め方を知ろう	D(1)ア(2)イ(3)イ	知識・技能	安全・衛生	0.5			
	208-213		特集	プログラムを学ぼう	D(1)ア(2)ア(3)ア	知識・技能	知財・モラル	1			
	214-217		7	つくってみよう	D(1)ア(2)ア(3)ア	知識・技能	知財・モラル	1.5			
	2章	218-219	8	1章で学んだことをまとめよう	D(1)アイ	知識・技能、態度	知財・モラル	0.5			
		220-221	1	双方向性のあるコンテンツの技術を知ろう	D(2)ア	知識・技能	消費者	1			
		222-227	2	双方向性のあるコンテンツの設計のしかたを知ろう	D(2)アイ	思考・判断・表現	知財・モラル	4			
		228-231	3	設計を図で表す方法を知ろう	D(2)イ	知識・技能	知財・モラル	1			
		232-243	4	設計に沿った双方向性のあるコンテンツを制作しよう	D(2)アイ	思考・判断・表現	知財・モラル	4			
		244-245	1	計測・制御システムの技術を知ろう	D(3)ア	知識・技能	安全・防災	1			
	3章	246-251	2	計測・制御システムの設計のしかたを知ろう	D(3)アイ	思考・判断・表現	知財・モラル	2			
		252-261	3	設計に沿った計測・制御システムを製作しよう	D(3)アイB(2)アイ	思考・判断・表現	知財・モラル	6			
		262-263	4	2・3章で学んだことをまとめよう	D(2)アイ(3)アイ	思考・判断・表現、態度	共生	1			
		264-267		社会の発展と情報の技術	D(4)アイ	知識・技能、思考・判断・表現、態度	モラル・知財・共生	2			
268-269		D編のまとめ	D(1)(2)(3)(4)	知識・技能、思考・判断・表現、態度	環境・共生						
え夢るをE編 技術な	270-271	扉	夢をかなえる技術	A(2)B(2)C(2)D(2)(3)	思考・判断・表現、態度	環境・共生	4.5				
	272-277	1	2足歩行ロボット	C(2)D(3)	思考・判断・表現、態度	環境・共生					
	278-283	2	バッテリーチャージャ	A(2)C(2)D(3)	思考・判断・表現、態度	環境・共生					
ファイナル		284-④		先輩からのメッセージ、索引、博物館紹介、未来社会の創造	ABCD	思考・判断・表現、態度	環境・共生	1	1		
切り取り ワークシート		A～D編		設計計画表にまとめよう	ABCD(2)イD(3)イ	思考・判断・表現					
別冊 技術 ハンドブック	2-16	A編		けがき、切断、切削、穴あけ、組み立て、仕上げ	A(1)ア(2)イ	知識・技能					
	14-23	B編		栽培ごよみ、早見表、土・培養液、肥料、病害虫、成長管理	B(1)ア(2)イ	知識・技能					
	24-29	C編		はんだづけ、回路計、ブルーガン	C(2)アイ	知識・技能					
	30-39	D編		プログラミング言語、コンピュータ・タブレットの使い方、用語集	D(2)イ	知識・技能					

# 編修趣意書

(発展的な学習内容の記述)

受理番号	学校	教科	種目	学年
31-116	中学校	技術・家庭	技術・家庭 (技術分野)	第一学年から第三学年
発行者の番号・略称	教科書の記号・番号	教科書名		
6・教図	技術・702 技術・703	NEW 技術・家庭	技術分野 明日を創造する	NEW 技術・家庭 技術分野 明日を創造する 技術ハンドブック

ページ	記述	類型	関連する学習指導要領の内容 や内容の取扱いに示す事項	ページ数
127	発光ダイオード (LED) が発光するしくみ	2	C (1) (ア) 電気、運動、熱の特性等の原理・法則と、エネルギー変換や伝達等に関わる基礎的な仕組み及び保守点検の必要性について理解すること。	0.25
191	音声のデジタル化の方法	2	D (1) (ア) 情報の表現、記録、計算、通信の特性等の原理・法則と、情報のデジタル化や処理の自動化、システム化、情報セキュリティの必要性について理解すること。	0.5
合計				0.75